

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

事業所名: グループホームめだかの学校シニア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	今後は施設の行事にも参加してもらいたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	今後も積極的に参加をしていきたい。 気軽に声をかけていただける関係を作りたい。

事業所名：グループホームめだかの学校シニア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>具体的にはないが職員も出来るだけ地域に顔出しをするよう心がけている。</p> <p>まずは地域の方にグループホームを理解してもらう事が大事なのでそこから始めていきたい。</p>	○	宣伝をかねて地域に挨拶まわりをしていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>過去の評価を参考に改善できるところは考えていきたい。</p> <p>外部の人に見てもらおう事で更なる向上が行えるよう取り組んでいきたい。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>活発に意見を述べてもらえるような関係作りを考えている。</p> <p>そこで出た意見を大事にして職員間で再度話し合い、次につなげるように考えている。</p> <p>家族代表からも意見が出やすいような雰囲気作りを心がけている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>電話連絡や市役所に行った際は声をかけたりしている。</p> <p>何かあれば簡単に相談しあえるようにしていきたい。</p>	○	今後も積極的に続けていきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>シニアの利用者も過去一名が利用していた。</p> <p>利用の必要性がある時は対応していく。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設内研修でも行い周知徹底を行っている。</p> <p>職員間で虐待についての話し合いも行っている。</p> <p>認知症についての理解を深める事にも心がけている。</p>		

事業所名：グループホームめだかの学校シニア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	会話を慎重かつ丁寧に行い、出来るだけわかりやすく話すように努めている。 質問をしやすい雰囲気作りにも心がけている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に話が出来る関係作りをして、苦情があった時は会議等に出してもらい検討課題とする。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時、また訪問できない家族へは定期的に連絡を取り情報提供している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決を言えるシステムは設置してある。 運営推進会議の時や、行事の時などにも何か要望・意見があれば発言してもらえるような雰囲気作りを心がけている。	○	今後も苦情を言いやすい関係を作りシステムの改善に努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の仕事の中で言い合える機会を設けている。 思った事は言えるような雰囲気作りを管理者、経営者も心がけている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	突発時などは臨機応変に対応して時間調整している。 併設施設もあり職員交流も日々行っているので、緊急時には応援に来てもらっている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力ダメージの緩和を考え、異動等配慮している。 児童養護施設もあり、児童の職員も一緒にお年寄りに関わりなじみの関係を作っている。		

事業所名：グループホームめだかの学校シニア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	今後も他施設との交流を続けていけるように努めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

事業所名：グループホームめだかの学校シニア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	柔軟な対応を心がけている。 法人内にもいくつもの施設があり、他にも交流している施設があるため、その時その時でニーズ確認して対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	その人らしさ、価値観、今まで生きてきた過程を大切にして生活してもらう。無理な強制は行わないように配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事、清掃等個々の能力に応じ出来ることは職員と一緒にやり家庭という思いで関係作りをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事等に招待したり家族を巻き込んだケアを心がけている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今まで生きてきた過程を尊重してその人らしく生活が出来るように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室の家具も馴染みの物を持ってきてもらったり、面会等も積極的に行っている。 はがきや手紙等を出したり関係が途切れないように配慮している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	フロアの座席も個々に配慮した組み合わせにしている。 レクリエーションも他施設に比べ多く、外出の行事も多いので皆で取り組む事が多い。		

事業所名：グループホームめだかの学校シニア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も連絡などあれば対応を行い、近隣の方ならばその後も付き合い続けている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今まで生きてきた過程を尊重してその人らしく生活が出来るように努めている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生きてきた過程を尊重してその人らしく生活が出来るように努めている。 利用者の生活歴を職員が把握してケアにあたっている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各自の能力に応じた一日のタイムスケジュールで対応している。 出来る事、出来ない事もそれぞれ違うので個別対応している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員・家族の意見を尊重してケアマネが介護計画作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院等でレベルの変化があった時などは突発的に新たな計画作成等で対応している。	

事業所名：グループホームめだかの学校シニア

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入したり申し送りノート・ケアノートなどに記入したもの等を参考にしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別的な支援を心がけ柔軟な対応を心がけている。 臨機応変な対応を心がけている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事に積極的に参加する。 地域のお店、理髪店等を利用している。 その中で地域に溶け込み連帯感を持てるよう配慮している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネやケアマネの連絡会に参加して情報交換を行い役立てている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと連絡を取り合い取り組んでいる。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切にして病院受診を行っている。 そのために連絡を取り合うよう心がけている。		

事業所名：グループホームめだかの学校シニア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人内にクリニックがあるので相談を行っている。 利用者の診断もすぐに行える環境にある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医がある場合はその看護師との連携を図り、ない場合は法人のクリニックの看護師・医師との連携を行い支援に取り組んでいる。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院に入院した場合は定期的に病院に行き、情報交換している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人クリニックの医師から説明してもらったり、管理者などから早い段階から話をしてもらうようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	法人本部と相談しながら常に対応している。 施設の出来る事と、家族の要望を話し合い今後については決めるようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	協議して取り組んでいる。 その人らしさを大切に行っている。		



事業所名：グループホームめだかの学校シニア

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	今での生活歴を大切にされた声かけやプライバシーの配慮に気をつけている。 特にトイレ誘導の声かけ等は慎重に行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々に応じた対応をしている。その人がその人らしく自分のペースで生活できるような対応に取り組んでいる。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に応じた対応をしている。その人がその人らしく自分のペースで生活できるような対応に取り組んでいる。	
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人・家族の希望を尊重している。 髪型も本人・家族の意向に配慮している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で行ってもらっている。 週に一度は自由にメニューがあり皆で話し合いメニューを決め買い物に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族から好きな物を聞き買うようにしている。 以前入所していた方でお酒が好きな利用者さんがいて毎晩晩酌をしていた。	

事業所名：グループホームめだかの学校シニア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	生活パターンを把握してトイレ誘導を行っている。オムツ使用は基本的にせず、トイレでの誘導を徹底している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタル等の状況でその人のタイミングを見て入浴してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	顔色・様子など見ながら日中でも横になってもらったり、逆に散歩を行ったりしている。個々のペースに合わせた対応を心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の能力に応じて役割を与え行ってもらっている。 (洗濯たたみ、清掃、新聞折り、手芸など)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談して持てる人には持ってもらっている。買い物は自分で支払いが出来るような配慮をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	甲府の中心なので近隣に買い物をする場所や散歩が出来る環境に恵まれており、外的環境の効果も大きいので積極的に行うようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外出の機会を多くして行事や不断の散歩、児童の行事に個別参加する等、積極的に外的環境の支援を行っている。		

事業所名：グループホームめだかの学校シニア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に電話や年賀状を出したり、利用者本人が家族に連絡を出来るような支援をしているが、これからも積極的に行っていきたい。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	開かれた施設を心がけ面会も自由に行ってもらっている。居室やフロアを利用して面会してもらいゆっくり面会してもらえるように心がけている。そのために面会者や外部の人が来た時の挨拶を徹底して行うようにしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修でも身体拘束についての研修会も行い各職員で身体拘束は原則しない方向で意識徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開かれた施設を心がけ玄関など鍵は日中かけないようにしている。他施設との連携もあり鍵をかけなくても生活できる環境づくりが出来ている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげない目配り、気配りを行い当日勤務している者同士が連携を図り、同じ仕事は重ならないようにするなど、職員自体も広い視野で業務にあたるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	普通の家庭に出来る限り近づけているため、危険と思われる物でも職員の気配りができ、安全に使用できるものは排除しないようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	施設内研修でリスクマネジメントについても勉強会を開き、ひやりハット報告書も活用して事故の再発防止や未然に防ぐ勉強会を行っている。 施設独自の事故防止マニュアルも活用している。		

事業所名：グループホームめだかの学校シニア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的には行っていないが施設内研修でも外部の講師を招き2月に実施予定。 外部の研修会には定期的に参加するようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を通して職員の動きは確認している。 来年度は防災講話を1回と、防災ビデオを2回、消防署を交えての避難訓練を防災計画に入れて取り組む予定。	○	地域の人にもごく一部の方々には理解してもらっているが、今後も多くの人に手伝いをしてもらえるように取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時や面会時などを利用して家族の方と話し合ったり、電話などで情報を伝え検討する場合もある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタルチェックなどで体調管理して、少しでも普段より体調の変化がある時には、こまめにチェックしている。口頭で職員間にも伝えるがホワイトボードにも記入して皆が分かるようにしてある。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケース記録に薬の目的や副作用の用紙等添付してあり皆に分かるようにしてある。 医務の申し送りノートを使い医療的な事に関しては情報を理解・共有出来るようにしてある。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘時には散歩や体操等体を動かす事を重視し、牛乳や果物等の繊維物の水分補給などを行っている。 便秘の方がいる場合は申し送りを密にして正確な情報を皆で共有するように努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行い、各自のADLに応じたケアを行っている。歯科衛生士が職員にいますので利用者のみならず、職員間も口腔に関しての勉強に励んでいる。		

事業所名：グループホームめだかの学校シニア

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の食事量や水分に関しては会議等でも毎月話し合い、健康に支障をきたさないようにしている。脱水には特に気をつけ水分をこまめに摂取できるように配慮している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修を通して感染症については勉強会を開き、職員でも理解を深めている。感染症マニュアルも利用して職員もうがい、手洗いを徹底している。利用者の方も病院受診の際はマスクを着用し他からもらってくる事も防いでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	うがい、手洗いを徹底して食中毒の予防を行っている。台所に入る時は職員もエプロンを変えたり、洗い場や器具の消毒にも配慮して行い防止している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の外には看板を両側に設置。1階には他部署の職員がおり、外部の人たちが来たときには丁寧な対応を心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品や写真を掲示したり出来るだけ明るく季節感が出るように心がけている。しかし利用者のADLの低下がここに来て進んでおり作品に対しては難しいところである。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファーを設置しており共有で楽しめるようにしてある。一人でファーに座り休んでいる人もいる。		

事業所名：グループホームめだかの学校シニア

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時や見学時などにも家族の方になじみのものを持って来てもよい事、持ってきてほしい旨を伝えている。 現実には家族の都合がよいのか市販の衣装ケースを持ち込む家族が多い。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時には窓を開け換気を行っている。 冷暖房を使用して温度調節している。極端に外気との差が生じないように配慮して使用している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	普通の在宅に近いように極力自立が図れるようになっている。 人員配置も多いので歩行訓練や散歩等も多く行い、建物上ばかりでなく自立が図れるよう工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者のADLや生活歴を把握して一人一人にあったケアを心がけ、会議等でも話し合いを重ねその人らしく生活できるような努力を行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	春先には利用者のベランダにプランターを置き楽しめるようにしてある。 施設が3階という事もあり危険な面もあり、難しいところもある。		

事業所名：グループホームめだかの学校シニア

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

児童とお年寄りが生活している施設というのは山梨県ではめだかの学校だけなので、常に子どもが行き来する環境がある。外部から来る人たちもその点に関心を持ったり驚いている人が多い。子どもからの刺激をもらったり、子どもにはお年寄りの尊さを学ぶ機会になり双方により影響がある。

甲府の中心という事もあり、建物の立地上、庭がない等不便なところもあるが、よいところに目をつけ外出等を多く行い、外的環境の刺激が多い。単独施設ではないので、他の法人内グループホームとの交流も日常茶飯事で職員間も交流を積極的に行っており、家族という絆が他よりも多い。

また法人内にクリニックもあるので、健康面のサポート機能も充実している。

昨年末に湯村に特養・グループホームの併設した大型温泉施設が出来たので、そことの交流も図り、利用者の気分転換を図るようにしている。

今後も市内にデイサービスやグループホームが出来るので交流を図っていく予定。

★職員は処遇するにあたり常に利用者の事を考え、楽しく明るくをモットーに利用者サービスを行っている。